

1 自分や友だちのよいところを見つける活動

友だちのよいところを見つけて「きらっとカード」に書き、相手に贈る活動を行っている。常時活動として行っているが、昨年度は「幸せを運ぶ手紙」と称して、縦割り班ごとに集まって、班の友だちのよいところを見つけ合い、異学年との交流を深めた。



また、今年度は、「〇年生褒め褒めウィーク」と称して、1週間、指定された学年の児童のよいところを全校児童で見つける活動を行った。全学年にウィークがあり全員が1年に1回は全校児童にきらっとカードを渡す。教師も一緒にカードを送ったり、届いたカードを放送で紹介したりした。友だちや教師から届いたたくさんのカードは関わりの少なかった児童を知るきっかけになった。カードをもとに自分のよさを集めた花を作り、自己肯定感を高めることにも結び付いている。



2 あいさつ運動



誰にでも自分から気持ちのよいあいさつができるように、児童会を中心にあいさつカードを使って取り組んでいる。校門の校長先生、職員室の教頭先生、昇降口の養護教諭、教室の担任と役割を分担して、あいさつを見守っている。カードには教師からスタンプが押されたりメッセージが書かれたりし、子供たちの励みになっている。昇降口や廊下の掲示板で、全校児童の頑張りが一目で分かるように工夫している。